

第五回海外視察報告書
～中国・北京～

2016年11月2日～6日

一般社団法人 広島県情報産業協会

目 次

まえがき	1
1. 視察概要	
1.1 日程	2
1.2 視察先.....	3
1.3 参加者一覧.....	4
2. ルネサスエレクトロニクス北京工場(瑞薩半導体(北京)有限公司) 訪問.....	5
3. 日立(中国)有限公司 訪問.....	8
4. 日立(中国)研究開発有限公司 訪問	11
【幻のデンソー天津工場 訪問】.....	14
5. 日電(中国)有限公司(NEC 中国) 訪問.....	15
あとがき	18

まえがき

H I A 一般社団法人 広島県情報産業協会
会長 有馬 猛 夫

今回で5回目となるH I A海外視察は、中国・北京市でした。よく「海外旅行で見識が広がり、今まで見えなかった日本の悪いところや良いところに気付くことがある」と聞きますが、今回の視察はまさにそれを強く感じた旅であったと思います。私の中国に対するイメージは、まだまだ「世界の工場」「安価での委託先」「成長に陰りがでてきてバブルリスクのある国」というものでしたが、それらは一変しました。生産を依頼する国から、大きな市場と多くの富裕層を持つお客様の意識を変えなければなりません。そして、万里の長城、故宮のように、街も市場もビジネスも大きく、参加メンバーが毎回同様に感じられている通り「行ってみないとわからないものだ！」を強く感じた内容でした。

視察ではルネサスエレクトロニクス北京にて、製造業の現状の説明と半導体工場の見学をさせていただきました。日立(中国)、日立(中国)研究所にてイノベーションにつながるお話をいただきました。NEC(中国)ではNECの取り組みのほか、顔認証による製品やPM検知器などの製品のデモンストレーションを見せていただき、中国でのIT利用の浸透を伺い知ることができました。道中ではNEC(中国)の堀内様にご同行いただき、ご案内など大変お世話になりました。

中国は、以前と比べると緩やかとなりつつあるとはいえ、経済成長率が7%前後で推移し続ける高い成長力があり、世界経済の影響力や発言力を強めている大国です。今回の視察では、今世界規模での大きな変化が起きている事実の認識と同時に、未来の対中国ビジネスの可能性を強く感じた次第です。ただ、高度成長の陰には、地方との格差問題やPM2.5などの環境問題、交通渋滞などのインフラ問題など、多くの課題があることも実感することができました。

その北京でのPM2.5は想像を超えるものでした。濃霧により高速道路が閉鎖となり予定していた天津市でのデンソー(中国)への視察が中止になるというアクシデントがありましたが、最終日の観光では一気に晴天となり天安門広場や故宮(紫禁城)、雄大な万里の長城を眺めることができました。

最後になりますが、視察を企画していただいた国際委員会の皆さま、お世話をしていただいたマイティネットのスタッフの皆様、中国の視察先の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

2016年11月

1. 視察概要

1. 1. 視察日程

	日付	(現地) 時間	日程
1	2016年 11月2日(水)	13:00 14:30 18:00	広島空港 国際線ロビー 集合 広島空港から空路北京へ 北京空港 到着 ホテルチェックイン
2	2016年 11月3日(木)	8:30 9:30-11:00 12:00-13:30 13:30-14:30 15:30-16:30	集合・出発 ルネサスエレクトロニクス 訪問 昼食: 市内レストラン 日立(中国) 訪問: 日立(中国)研究開発 訪問
3	2016年 11月4日(金)	7:00 8:30-10:30 12:00 13:00-15:30	集合・出発 NEC 訪問 昼食(バス内) 市内視察
4	2016年 11月5日(土)	8:00 終日 23:50	集合・出発 市内視察 空路、関空へ
5	2016年 11月6日(日)	5:30 13:30	集合・出発 広島到着 到着後 解散

1. 2. 視察先

	視 察 先	備 考
1	ルネサスエレクトロニクス北京工場	ルネサスエレクトロニクスの中国事業紹介
2	日立(中国)有限公司	日立の中国事業紹介
3	日立(中国)研究開発有限公司	日立の中国での研究開発事業の紹介
4	デンソー天津工場	PM2.5による高速道路封鎖の為、中止
5	NEC(中国)	NEC事業紹介、ショールーム見学



～～天安門広場～～



～～故宮～～

1. 3. 参加者一覧

	氏 名	所 属 先	役 職
1	山 下 晶	平和情報システム株式会社	取締役事業部長
2	中 元 正 彦	株式会社ECS	代表取締役社長
3	有 馬 猛 夫	株式会社ネクストビジョン	代表取締役社長
4	中 本 進 也	株式会社エレコム情報サービス	プロコールサービス 部長
5	亀 山 創	株式会社サンネット	代表取締役
6	掛 川 俊 一	株式会社サンネット	シニアエキスパート
7	宍 戸 誠 司	株式会社広島情報シンフォニー	課長
8	高 羽 威	株式会社アドバンステクノロジー	代表取締役
9	岡 田 一 郎	トッパン・フォームズ株式会社	営業本部長
10	戸 野 文 雄	株式会社 コトブキソリューション	常務取締役
11	川 上 真 由 美	株式会社ウイン	専務取締役
12	村 上 賢 二	株式会社ネットスクエア	代表取締役
13	渡 辺 泰 朗	株式会社マイティネット	代表取締役
14	中 山 直 之	株式会社マイティネット	取締役
15	山 本 雄 介	株式会社マイティネット	マネージャー

2. ルネサスエレクトロニクス北京工場（瑞薩半導体(北京)有限公司）訪問

2. 1. 訪問の概要

訪問日 : 2016年11月3日(木) 9:30 ~ 11:00
訪問先住所 : 中国北京市海淀区上地信息产业基地8街7号
面談者 : 董事長・総経理 小野澤 俊明様
: 信息管理部部长 内堀 博久様

2. 2. 会社概要（ルネサスエレクトロニクス北京工場）

設立 : 1996年3月29日（設立20周年）
資本金 : US\$90.44M（ルネサスエレクトロニクス株式会社100%出資）
事業内容 : 半導体の設計・製造（SRSM及び、自動車・産業用制御・家電向けのMCUのパッケージ設計と製造サービス）
生産規模 : 5000万個/月～6000万個
パッケージ : 87種類のパッケージを保有しており、現在は約30種類を製造
従業員数 : 約1400名（内日本人スタッフ13名）
従業員比率 : 製造部門（91%～92%） 品質部門（8%～9%）
仕向け地 : 日本向け（5割強）、日本経由中国向け、中国国内向け（増加傾向）
システム : 生産サポートシステムを入れ替え中（来年完成予定）
※グループ内の各生産拠点間で共通化⇒品質向上・コストダウン

2. 3. 業務内容詳細

半導体製造の後工程（第1工場見学にて）

① 組み立て（組立用装置）

- ・ウェーハをチップに切断する
- ・不良マークのないチップをリードフレームに固定する
- ・リードフレームとチップを金線で接合する
- ・セラミックや樹脂パッケージに全体を封入する
- ・フレームを切断し、リードを成型する

② 試験/検査・マーキング（検査用装置）

- ・機能試験を行いながら温度電圧ストレスを加える
- ・電気的特性検査、外観構造検査などを行い不良品を取り除く
- ・半導体製品表面にレーザーで品名などを印字する

2. 4. 中国（北京）での労働力の現状

① 労働者の特徴について

- ・人によるが、管理者が見ていないところでは手を抜く傾向がある
- ・追い込み時には火事場の馬鹿力で仕事をまとめて完成させる力がある
- ・転職者が多く、3年程度でステップアップしていく傾向がある
- ・優秀な人材から以下の順番で企業を選んでいくようだ
政府⇒銀行⇒欧米企業⇒日本企業⇒ローカル企業
※最近では優秀なローカル企業の台頭にて日本企業との逆転現象もみられる
- ・最近では反日感情をもった方は殆どいなくなったように感じる
※日本への旅行者が増加して実際に日本を体感したからと思われる

② 人件費について

- ・日本と比較すると約半分程度の賃金
- ・毎年5%~8%上昇している（約10年で現在の日本並みとなる予測）
- ・北京市が年数回の最低賃金の引き上げを行っている
- ・良い人材の確保には高い賃金が必要になっている

2. 5. 中国での日系企業の現状と今後

① 製造業（半導体生産）

- ・現在は日本の拠点で新しい商品の開発、安定した商品を北京工場で製造
- ・内陸にある規模が6倍程度のローカル企業の工場との競争
- ・ルネサスエレクトロニクス内部の他工場との競争
- ・生産効率の追求（従業員教育・ソフトパッケージ導入・共通化・人員削減）
※低価格化のみでなく、品質と価格のトータルバランスの追及が重要

② IT企業

- ・中国を市場とできる企業が残っている、また、そのように変化している
- ・中国にある工場や企業、また、ローカル企業のソリューションの需要も拡大
- ・北京をオフショア先（ソフト工場）としている企業は殆どなくなった

2. 6. 所感

これまで、商品の品質や技術力で勝負してきた日本企業だが、優位性は一部の圧倒的に差別化できる商品分野を除き、段々と薄れてきているのではないかと。

単に品質がよければ売れるわけではない時代に突入したように感じた。

特に中国のように、低価格・低品質の商品から高価格・高品質の商品までが提供される顧客の選択肢が広い市場では、企業間の競争は「品質と価格」のトータルバランスの戦いとなり、相対的に顧客にアピールできる商品が求められている。

しかも昨今は、低価格を武器とする中国ローカル企業の出す商品も、随分と品質が向上しており、高品質・高価格でしか勝負できないと、今後は更なる劣勢が予測される。

このような状況下、私たちが中国は勿論、世界で日本で生き残るためには、「おもてなしの心」を基調とした、きめ細かいサービス（痒いところに手が届くサービス）が重要ではないかと感じた。

（この稿：戸野 文雄）



(左) 内堀 博久様 (右)小野泽 俊明様

3. 日立(中国)有限公司 訪問

3. 1. 訪問の概要

訪問日 : 2016年11月3日 13:30~14:30
訪問先住所 : 中国 北京市朝陽区東三環北路5号北京發展大厦18層
面談者 : 日立(中国)有限公司
金森 秀人、勝又 賢一、高畑 正徳、木村 雅彦
北京日立北工大情報系統有限公司(HBIS)
松崎 勝彦、永野 靖、三浦 太

3. 2. 会社概要

株式会社日立製作所 日立グループ概要

創業 : 1910年
売上収益 : 10兆343億円(約6,008億元)
営業利益 : 6,348億円(約380億元)
従業員数 : 335,244人
会社数 : 1,056社 (日本、欧州、北米、アジア(中国含む)、その他)

日立グループの中国事業

売上収益 : 1兆555億円(約632億元)
従業員数 : 約47,772人
会社数 : 180社
グローバル連結売上収益の10%を占め、日立の重要な海外市場の一つ

3. 3. 日立の中国事業の歩み

日立の中国事業の変遷(4段階の事業展開)

フェーズ1 日中国交正常化直後(1972~)
日中国交正常化を受けた設備・プラント輸出
フェーズ2 対外開放初期(1978~)
中国の対外開放、国産化要求に沿った技術供与
フェーズ3 南巡講話以降(1992~)
中国の開放加速を受けた現地法人設立
フェーズ4 WTO加盟以降(2002~現在)
中国市場を見据えたグループ経営加速

3. 4. 北京日立北工大情報システム有限公司(HBIS)の会社概要

設立時期 : 2003年9月10日(登記日)

資本金 : 1億円(約83.3万米ドル)

日立グループ 60% 北京工大の事業会社 40%

事業拠点 : 本社 北京市(中国) / 日本支店 東京都(日本)

従業員数 : 152名(2016年7月1日現在)

会社設立目的: 中国社会に立脚し、日立と北京工業大学の産学連携を活かした高品質で特色ある「情報システム製品/ソリューション・サービス」をお客様に提供し続けることにより、社会の発展に貢献する。日本のコア技術を元に中国現地で製品化するフルバリューチェーン(地産地消)を目指している。

3. 5. 北京日立北工大情報システム有限公司(HBIS)の事業構成

①教育

- ・デジタルキャンパス

- ・E-LEARNING

小中学校向けの成績管理/時間割作成などの教務システム

昨年度約15校の小中学校に導入。今後クラウド対応に向けパートナーと連携中

②情報セキュリティ

- ・指静脈認証設備

- ・指静脈認証システム

ハードウェアは日本製。ソフト面はアンドロイド端末への接続などを実装

年金受給時、写真確認(IDカード)に代わる標準認証手段として活用すべく活動中

③映像検索と ITS

- ・高速映像/画像内容検索

画像データを検索キーとしカメラ映像や蓄積データから類似画像を検索する

- ・バス混雑度評価

バスに設置したカメラ映像から乗客の乗降数、乗客混雑度を判別

④ヘルスケア

- ・総合ヘルスケアソリューション

- ・生活習慣改善ソリューション

食事、運動を管理/見える化することで生活習慣の改善、肥満解消を図る

健康指導サービスに食事、運動メニューを追加。WEB、スマホ版の供給が可能

⑤特許検索と分析

- ・グローバル特許DBと検索システム

- ・特許データ統計分析

ASP形式で大量の高精度な特許情報をサポートし、制度の高い調査環境を提供

⑥システム開発と IT インフラ構築

- ・ソフト製品と業務システム開発

- ・IT インフラ環境構築と運営

3. 6. 所感

日立グループでの売上収益(10兆343億円)の約10分の1を占める中国事業の中国進出から今後の事業展開までを聞くことができました。2015年末からの市場混乱、GDP成長率の低迷もありますが今後も大いに成長がある市場であると思います。

(この稿：中本 進也)



会議室でのプレゼン風景

4. 日立(中国)研究開発有限公司 訪問

4. 1. 訪問の概要

訪問日 : 2016年11月3日 15:30~16:30
訪問先住所 : 北京市海淀区科学院南路2号融科资讯中心C座北楼301
面談者 : 総経理 陳 楊秋様

4. 2. 会社概要

資本金 : 600万米ドル(4,962万人民元、6億円)(出資比率:日立(中国)有限公司 100%)
事業所 : 北京市、上海市、広州市
事業内容: 研究開発、製品設計、プロト開発、製品試験、教育研修、人材育成
社員数 : 100名(研究者)

4. 3. 日立の R&D 戦略

①研究の歴史

日立は「優れた自主技術で製品の開発を通じて社会に貢献する」を理念として1910年の創業から100年以上の成長を実現している。これは技術の成長の歴史とも言える。最初の研究所を1934年に日本に設立、グローバルの研究所については1989年に北米及び欧州に設立、その後、中国(2000年)、シンガポール(2005年)、インド(2008年)に設立した。

②技術イノベーションへの理解

現在、『社会イノベーション事業を通じて世界に貢献する』を宣言しており、『イノベーション』は日立のキーワードになっている。

これまで研究開発は技術や特許などの成果を上げることを目標としていたが事業或いはサービス、製品といった事業収益として新たな価値を生み出すイノベーションまで踏み込まないと研究開発の意味がないという方針が変わった。

③イノベーションを起こす日立グループの R&D 戦略

「製品起点」から「市場起点」「顧客起点」へ転換する為に R&D 体制を再編した。

顧客協創: 社会イノベーション協創センター(CSI)

サービス・ソリューションをお客さまと協創

研究開発拠点: CSI 北米(3)、CSI 欧州(6)、CSI 中国(3)、CSI 東京(3)

技術革新: テクノロジーイノベーションセンター

強い技術基盤へ集中と展開で革新的製品を生む

基礎研究: 基礎研究センター

ビジョンに基づく探索型基礎研究で新領域を開拓

研究開発拠点: 日本(5)

カッコ内は拠点数

4. 4. 中国における日立の R&D 戦略

グローバル研究開発の1つとしての日立(中国)研究開発有限公司としての北京、上海、広州の3拠点がある。また、中国日立事業グループとして建機、自動車部品などの各社にも開発センターを持っており、各分野の開発を担当している。

①日立(中国)研究開発有限公司の使命

中国における日立の社会イノベーション事業をリードする点から3つの使命を持つ

- ・中国発世界向けイノベーションの成果を重点分野で創出
 - ・顧客協創で日立グループの中国事業拡大、新業務開拓に貢献
 - ・中国大学及び各機関と連携し、オープンイノベーションの生態系構築
- 各拠点がそれぞれの使命に対して、顧客協創、技術開発、大学連携を行っている。

②顧客協創活動の実例

a. スマート交通ソリューション

- ・市場機会
大都市での公共交通機関のサービスと効率の向上
- ・協創顧客
政府交通局傘下のバス運営会社
- ・ソリューション
ビデオ解析技術に基づく乗客混雑度・バス運行状況を解析し、運航効率と顧客サービス向上を実現する映像ソリューション

b. 銀行現金管理ソリューション

- ・市場機会
競争の激化による金融機関の効率向上とコスト低減のニーズが顕在化
- ・協創顧客
中国大手銀行、金融機関
- ・ソリューション
金融機関に ATM 現金運用コストを低減するソリューションを提供
(現金需要予測と配送ルート最適化を含む)

4. 6. 所感

研究開発という未来の技術、高度な技術というイメージが強かったのですが顧客視点、事業収益の重要性を再認識させられるお話でした。また、日常屋台でスマホによる電子決済ができるなどフィンテック技術が進んでいる半面、現金管理に関するソリューションが存在する点やバスの運行管理をビデオ解析技術で解決するなど中国の高成長の反面、広大な国土でそのスピードに差があることを再認識する視察でした。

(この稿：山本 雄介)



陳 楊秋様



会議室でのプレゼン風景

【幻のデンソー天津工場訪問】

■訪問の概要

訪問日 : 2016年11月4日予定
訪問先住所 : 未訪問
面談者 : 未訪問

■所感

北京についての印象は、都心部の交通渋滞とPM2.5で霞んだ空気でした。急激な経済成長を遂げ、車を所有する事がステータスになった中国では、慢性的な交通渋滞が発生しています。都心部への乗り入れはナンバープレートの番号で規制があるみたいですが、そのナンバープレートの取得が困難になっていると聞きました。それに交通マナーの悪さが加わり、一日に何度も交通事故に遭遇することになり、それが更なる交通渋滞を生んでいます。また、自動車からの排気ガスがPM2.5の増加に拍車をかけます。これからの季節は暖房の為に石炭を焚く家庭が多くなり、ますます霞んだ世界が広がってきます。その影響もあってか、この日の空は朝から薄暗くどんよりとしていました。北京では普通の夜明けの風景かと思っていましたが、なんと、“PM2.5の為に視界不良”で高速道路が封鎖されてしまいました。確かに、隣もビルもはっきり見えない世界が広がっています。とても残念でしたが、天津でのデンソー訪問を次回の楽しみとしたいと思います！

(この稿：村上 賢二)



霞む北京市内



通行止めによる渋滞

5. 日電(中国)有限公司 (NEC 中国) 訪問

5. 1. 訪問の概要

訪問日 : 2016年11月4日 9:00~10:30
訪問先住所 : 北京本社 北京市海淀区学院路35号世寧大厦18階 100191
面談者 : 企画部 浜谷総経理様、 製造装置事業部 堀内副総経理様

5. 2. 会社概要

創立 : 1996年11月4日
資本金 : 29億円
主要事業 : ITソリューション事業/キャリア事業/IT・NWプラットフォーム事業/ディスプレイ製品事業/ソフトウェア開発事業/R&D
従業員数 : 2,802人 (2016年3月末)
グループ会社数 : NEC(中国)グループ 傘下会社 12社
拠点 : 北京(本社) 上海、広州、大連、天津、西安、桂林、重慶、成都、武漢、深圳、青島、済南、蘇州、杭州、香港、台湾

特記 : 1972年、中国より衛星ステーションの受注を機に、1980年に NEC 北京事務所を開設。
視察日の11/4は、1996.11.4に設立した NEC 中国有限会社の設立20周年の記念日にあたる。
NECは、中華圏(中国、香港、台湾)に、NECの直接投資会社を16社、間接出資会社を10社設立。



5. 3. プレゼンテーション

NEC の中国市場への取り組み

①中国での NEC の歩み

- 1972～1980年 : 輸出主体に事業開始
移動式衛星ステーション受注（日中国交正常化）
NEC 北京事務所開設
各省、市向け通信設備システム輸出
- 1990～1999年 : 国産化を含め生産工場及び SI 会社設立
首鋼 NEC（半導体）／天津 NEC（交換機）／武漢 NEC（光通信）／西安 NEC・桂林 NEC（マイクロ）など設立
NEC（中国）有限公司／NEC 系统集成（中国）有限公司
（NEC 情報システム前身）設立／上海華虹 NEC（半導体）設立
- 2000～2009年 : 中国市場向け事業及び中国人材活用本格展開
中国研究院設立 ソリューション事業が正式展開
IT ネットワーク製品販売 オフショア開発 国際購買の強化
在中法人を統合、新しい NEC(中国)を事業統括会社として設立
- 2010～2015年 : 新生 NEC(中国)での更なる飛躍
在中法人を統合、新しい NEC(中国)を事業統括会社として設立
智慧都市事業に進出
NEC（重慶）情報システム有限公司設立
亮馬橋外交オフィスビルに引越し、ショールームを設立

②NEC グループ中華圏 現地法人

中華圏とは、中国大陸、香港、台湾を示します。

NEC 本社出資 : 16 社

NEC 関係会社出資 : 10 社 計 26 社



会議室でのプレゼン風景



中央：浜谷総経理様 左：堀内副総経理様

③ 中国における事業

NEC は、中国でも社会ソリューション事業を展開しているが、政府が国産化政策を進めている為、中国企業と組んで事業を行っている。

特に、航空、医療、自動車などは重点分野であり、この領域では大手の中国企業と組んでいくことがますます重要となる。

製品としては、NEC の液晶ディスプレイが成功しており、シェアは大きい。

従来から日系企業向けのソリューション事業を展開しているが市場規模が小さく、中国企業向けの事業を伸ばす必要がある。

ちなみに、従来複数あったNECの工場は整理し、現在 NEC は中国では製品の生産はしていない。

中国の実質経済成長率は、6.7%（2016 年）が想定されており、これは小さく見えても、インドネシア一国分の GDP に相当しており、経済規模は大きく成長性も高い。今後 3 年間の GDP 成長率は 6.5%の見通しで、経済の成長は著しいと想定されている。

④ ショールーム見学

（顔認証、大気汚染監視、養老（福祉）、コンビニの立ち上げ支援のデモ）

中国では、60才以上の人口が2億人以上であり、特に福祉対策は急務とされている。日本からも福祉・介護サービスが参入を始めており、NEC も注力する方針である。

また、今後は、教育と医療の分野にも事業を拡大して行きたいとの事。

5. 4. 所感

NEC の方以外でも、中国で活躍するルネサス、日立の日本企業の皆さん（日本人）は、共通して活気（覇気）があり、文化、習慣、食事も異なる中国で、困難な市場開拓を進めていく為に必要、かつ十分な素晴らしい素養を持たれており、生き生きとした躍動感を感じる事が出来ました。

日立研究開発の陳社長から「日本は、長い歴史の中で、多くの国民がほぼ同時に順次、豊かになっていった。しかし、中国は、限られた一部の国民だけが豊かになり、多くの残りの国民は置き去りになって、現在でも大きな格差がある。」と伺いました。

ビジネスには関わりませんが、この事は、貧富や学歴だけの格差にとどまらず、北京の人口 3,000 万人の内、住民票を持たない農村部の人が 1,000 万人いる事実からも、今後の中国がずっと引きずっていくボディブロー的な痛みなのかもしれないと思いました。

（この稿：掛川 俊一）

あとがき

今回の訪問先である北京市は、中国の華北というエリアに属し、緯度的には日本の岩手県とほぼ同緯度で、その面積は、四国とほぼ同じ程度の広さです。北京の有名な観光地である天安門や故宮博物院、万里の長城には、今は外国人観光客のみならず、中国各地から多くの観光客が訪れており、中国人観光客の方が圧倒的に多いほどです。これは、急成長している経済が安定していることの証であり、そんな経済状況が北京のみならず国内の消費動向を益々推進しているのではないのでしょうか。しかし、中国全体でいえば問題も沢山あり、都市と農村の格差が顕著にうかがえる状況です。

実際に訪問してみるとあらためて再認識する事もありました。先ずは、道路交通の渋滞は慢性化し、移動時間における損失時間は日本に比べるとはるかに多く、約束した時間に到着するのは至難の業だということです。また、自家用車の増加にともなう排気ガス排出量の増加です。ここ数年の経済成長により自家用車を持つ人は急激に増え、中国政府も自家用車を規制すべく新車の販売台数規制、ナンバープレート末尾番号規制という対策も進めていますが、上手くは行っていません。今回の視察の中でも実際に、PM2.5で高速道路が閉鎖となる事態となり、デンスー天津工場様を訪問する事が出来ず、皆様にはご迷惑をおかけしました。経済成長が著しい故に国内の空気汚染問題はまだまだ続きそうです。

経済成長は、90年代の前半には2桁、現在でも6~7%の経済成長率を維持しており、国を挙げて国際社会の先進国と肩を並べるべく猛進しているのがよく分かります。2008年北京オリンピックを機に、ビル・道路や通信網といったインフラ面は驚くほど近代化されており、ソフトウェア面でも日本よりも新技術は急速に広まり、また都市ではモバイル端末があれば何でも出来るほどの便利さを目の当りにし、中国の圧倒的な底力を大いに感じさせられました。視察参加者の皆さんは色々な感想を持たれたと思いますが、急速な経済発展を遂げた都市部、経済格差の残る農村部、歴史的にも貴重な観光資源が同じ時代に併存する、一度はぜひ訪れてみたいアジアの大国であると感じました。

最後になりましたが、今回、企画調整から現地アテンドまで全面的にお世話になりました日立製作所の船越様、日立(中国)現地の皆様方、NEC(中国)の堀内様をはじめ現地の皆様方に、この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

2016年11月

国際委員長 渡辺 泰朗